

みんなでたすかる防災・ 個別避難計画づくりサポート事業

社会福祉法人 京都市下京区社会福祉協議会

▶担当 新山隆司 ▶電話 075-361-1881 ▶メール t-shinyama@kcsw.jp

事業目的・背景

「災害時要配慮者」と言われる高齢の方や障害がある方などは、災害時の救助・避難や災害後の自宅の後片づけ等において適切な支援につながらず、困りごとを抱えたまま孤立することがあると言われています。当団体は、こうした課題に対応できる防災の考え方“みんなでたすかる防災(インクルーシブ防災)”を、下京のまちに広めるための事業を展開しています。

事業概要

2017年から行っている「みんなでたすかる防災」について考える講座」のさらなる開催や、学区・福祉事業所等が行う災害時要配慮者の「個別避難計画づくり」の支援、「リーフレット・クリアファイルの作成」を行っています。

活動期間

1993年7月社会福祉法人化。現在、区の第Ⅳ期地域福祉活動計画「下京やさしいまちづくり計画2025」に基づき、「あなたに・みんなにやさしいまちづくり ～誰もが“その人らしく”“安心して”暮らし続けられる、“顔の見える関係”になれる2025年の下京のまち～」を、地域で暮らす方々と共に進めています。

成果

「みんなでたすかる防災」について考える講座」…17回開催、延べ720名参加
「個別避難計画づくり支援」… 2学区及び1関係機関を対象に実施 など

今年度初の試みとして、七条学区「全世帯アンケート」実施を支援しました。学区で暮らす方の「災害時不安に思うこと」を聞き取って寄り添い、学区で暮らす方の「自助力」「共助力」向上や平時のまちづくりに活かしていきます。

今後の予定

2021年度もさらに“みんなでたすかる防災”が広まるよう、「みんなでたすかる防災」について考える講座」のような「風土づくり支援」と、「個別避難計画づくり支援」のような「寄り添い 共に考える支援」の両方を行います。



松原中学校で開催した、「みんなでたすかる防災」について考える講座」の様子。中学生を対象にクイズを交えながら行いました。



高齢サポート・下京西部(地域包括支援センター)圏域地域ケア会議で開催した、個別避難計画づくり研修会の様子。要配慮者の方・要配慮者の関係機関の方・地域役員の方を対象にワークショップ形式で行いました。



下京区地域支え合い活動入門講座「下京男塾」で開催した、身の回りにあるもので防災グッズを作る講座の様子。下京区社協は様々な場面を通して、“みんなでたすかる”ための「自助・共助」「普段の顔の見える関係」の大切さをお伝えしています。